

“ 学校での紙ごみ ” もったいないやんかプロジェクト

地球の環境悪化に端を發し「京都議定書」が発効され、政府の CO2 削減目標達成計画もだされましたが、目標値の低減は並大抵のことではありません。それだけに、私たち一人ひとりの行動そのものが大切であり、また、児童・生徒を対象とする環境教育の重要性はさらにましていくものと考えます。このたび学校を対象としたのは、この活動が、次世代を担う児童・生徒にとって、環境についての生きた教材になるのではと考えたからです。

1月に大阪市教育局への要請、2月に各校長会への説明など行い、3月年度末に最初の回収にまわりました。大阪市内小・中・高あわせ430校中73校からスタートし、7月で80校を大きく上回りましたが、目標の200校を越えるには、まだいくつものハードルがあります。

すでに全国図書販売協議会が小中学校用図書教材の見本リサイクルシステム（ReCo 活動）を展開していますが、実態は十分な機能はしていません。このような中で教材見本だけでなく、広く学校から出る紙ごみの回収をしてほしいという要望もでてきました。ここで「紙ごみ『もったいないやんか』」プロジェクトを立ち上げ、「大阪市立小学校、中学校、高等学校を対象とする、校内より出る紙ごみ回収」について、関西製紙原料事業協同組合の支援を得て、ボランティア回収する運びとなりました。本年3月末から4月にかけて、5月末から6月にかけて2度の回収活動の結果は、74校で35,670kgの古紙を回収することができました。この内容は4月4日付けの毎日新聞の夕刊に取り上げられました。今回の回収結果では、1校あたり約480kgもの紙ごみが出たこととなります。大阪市立小・中・高等学校約450校の推計では1度に215tを超える紙ごみが焼却処理されてきたこととなります。一般的には「古紙1tのパルプ再生によって、径14cm、高さ8mの立木20本分の緑が守られる」と言われます。

回収活動については、年3回程度を予定していますが、ある程度の量があれば随時回収もしています。

まず、参加校を増やすことが資源循環型社会を実証することができます。その目的にむかって私たちは、回収された紙ごみを良質な資源となるよう、種類の分別が必要となってきます。共感と協働を広げていくよう、新たな展開にむけて模索中です。読者の皆様もどうぞご参加いただきますようお願いいたします。

